

最新刊

2022年  
3月下旬刊行

剣道教士八段

なが  
お  
すすむ  
長尾 進 著

# 剣道の文化誌

— 剣術・撃剣・剣道、その文化としての成り立ち —

四六判・上製・480頁・定価2640円

戦後、剣道は競技として飛躍的に発展してきた。試合での勝利を目指して努力する姿は尊いものであり、そうした面が剣道の普及・発展に貢献してきたことは確かである。一方、剣道を「文化」として捉えた場合、形（日本剣道形など）や日々の稽古の中にその価値を見出すことができる。  
本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には、剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存じない方には、剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとしてぜひご一読を。



長尾 進 (ながおすすむ)



昭和33年（1958）年2月、熊本県八代市生まれ。八代市立第一中学校入学時より剣道を始める。熊本県立八代東高校を経て55年、筑波大学体育専門学群卒業。58年、筑波大学大学院体育研究科修了（体育学修士）。筑波大学体育科学系助手等を経て、平成5年、明治大学商学部助手。14年、明治大学商学部教授。20年、明治大学国際日本学部教授。現在に至る。

剣道教士八段。日本武道学会理事長。日本古武道協会常任理事。全日本剣道連盟常任理事。国際剣道連盟事務総長。

## 目次

- 第1章 剣道のはじまり  
— 「剣」と「刀」をめぐって —
- 第2章 剣道の源流  
— 剣術流派の発生と台頭、三源流と現代剣道 —
- 第3章 上泉信綱の事績・功績と「しない」の創案
- 第4章 「しない」の継承と普及  
— 足田景兼「廻国記」の検討 —
- 第5章 無刀・しないの本意と治世の剣の確立
- 第6章 宮本武蔵と『五輪書』
- 第7章 剣術道具の改良と試合稽古
- 第8章 しない打込稽古の発展と地域での展開
- 第9章 廻国修行の復活としない打込稽古の広がり
- 第10章 武士教育における道具着用稽古の奨励
- 第11章 大石進種次の事績と槍術との関係
- 第12章 他流研究の活発化
- 第13章 撃剣の集大成
- 第14章 撃剣実用論
- 第15章 幕府「講武所」と男谷信友
- 第16章 幕末期における撃剣・剣術の諸相
- 第17章 明治初期の剣術と撃剣興行
- 第18章 剣術・武術の復権と撃剣批判
- 第19章 山岡鉄舟の影響、および武徳会の設立
- 第20章 大日本武徳会の発展
- 第21章 剣道の正課編入と剣道形の制定
- 第22章 「剣道」の定着、団体教授法、学生剣道
- 第23章 競技としての隆盛、戦時下の剣道
- 第24章 戦後の復活と発展、剣道の将来

編集・発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3  
ホームページ <https://www.nipponbudokan.or.jp>

お問い合わせ・ご注文は  
日本武道館出版広報課までどうぞ！

TEL03(3216)5147  
FAX03(3216)5158